

講演内容&スケジュールについて

来場型での開催となります
講座内容は同じです。ご都合のよい会場を選んでいただきお申込みください

2024年4月1日より東京本社は八重洲に移転し、開催いたします！ご来場の際はご注意ください！

大阪会場 船井総合研究所 大阪本社

2024年**5/21(火)** 申込期限 **5/17(金)**

14:30~17:30 (受付開始:14:00~)
〒541-0041 大阪市中央区北浜4-4-10 船井総研大阪本社ビル
[地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」⑩番出口より徒歩2分]

東京会場 船井総合研究所 東京本社

2024年**5/29(水)** 申込期限 **5/25(土)**

14:30~17:30 (受付開始:14:00~)
〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号
東京ミッドタウン八重洲八重洲セントラルタワー35階
[JR/東京メトロ丸の内線「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)]

受講料

■一般価格(1名様)

税込**33,000円**(税抜 30,000円)

※会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン(旧:FUNAIメンバーズPlus)へご入会中のお客様のお申込みに適用となります。
※諸事情により、やむを得ず会場を変更する場合がございますので、会場はマイページにてご確認ください。また最少催行人数に満たない場合、中止させていただく場合がございます。尚、中止の際、交通費の払戻し手数料等のお支払いはいたしかねますので、ご了承ください。

■会員価格(1名様)

税込**26,400円**(税抜 24,000円)

講演内容について

第1講座

幼稚園経営の行方

今後「幼稚園」として経営していく上でのリスクを、参照となる外部環境を含めお伝えし、経営戦略としての認定こども園移行についてお伝えしてまいります。

株式会社船井総合研究所 子育て支援部 チーフコンサルタント 高橋 勲功



第2講座

ゲスト講座 事例から学ぶ、認定こども園移行から運営安定化まで

認定こども園さ幼稚園としての認定こども園への移行から運営安定化までの事例をお話いただきます。

学校法人 中島学園 櫻井 真氏



第3講座

「安定した認定こども園運営」までの道しるべを徹底解説

ゲスト講座を踏まえ、認定こども園移行から移行後の運営を軌道に乗せるために、どのような点に注意して進めていくべきなのかポイントを絞って徹底的に解説します。

株式会社船井総合研究所 子育て支援部 佐藤 優衣



第4講座

明日から考えたいこと

本セミナーのまとめとして、特に重要なすぐ実践していきたいことをお伝えしてまいります。

株式会社船井総合研究所 子育て支援部 チーフコンサルタント 高橋 勲功

講師のご紹介

特別
ゲスト講師 学校法人 中島学園
櫻井 真氏

大学卒業後、幼稚園・保育園に教材教具を販売する会社に6年間勤務。新人金賞や若手優秀社員賞を受賞するなど社内表彰を受ける。その後、母が理事長・園長を務める学校法人中島学園に就職。前職での経験を活かし、幼稚園改革に着手。現在8年目。通信大学にて幼稚園免許状を取得。



株式会社船井総合研究所 子育て支援部
チーフコンサルタント **高橋 勲功**

一橋大学大学院経済学研究科修了後、入社。入社後は在学中で培った調査・分析能力を駆使して、施設型給付幼稚園・認定こども園移行サポートや、オンラインも併用した園児募集計画策定・実行支援をはじめとする、主に学校法人立の幼稚園や認定こども園への経営全般のコンサルティングに従事。



株式会社船井総合研究所 子育て支援部
佐藤 優衣

中央大学卒業後、新卒で入社。在学中に中学校教諭一種免許状(社会)・高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)を取得し、4年間塾講師としても業務に従事。入社後は主に学校法人立の幼稚園や認定こども園の運営安定化を支援し、Z世代としての強みを生かしたSNSの活用など、Webマーケティングの支援を得意としている。



保育園化したくないあなたに伝えたい…!

幼稚園文化を残しつつも真剣に



5年後の園運営を考えていきたい方へ

2大都市で来場型開催

**2024年
最新版!!**

1号認定比率
**70%を維持
したまま**

**5年以上連続
募集人数100%を
達成した秘訣とは?**

このような方におすすめのセミナーです!

- ✓ 幼稚園としての文化を大切にしたいと考えているが、認定こども園移行はしなければならないと考えている方
- ✓ 資材の高騰の影響もあり園舎の建て替えをせず認定こども園への移行を検討している方
- ✓ 園児数は十分に充足しているものの、直近1~2年の年少児数の減少が顕著に伸び悩んでいて対策を検討している方
- ✓ 現状の運営形態から変わらず認定こども園移行をしていきたい方
- ✓ 認定こども園移行後の園児募集に不安を感じている方

特別
ゲスト
講師

学校法人
櫻井 真氏
中島学園



2大都市で
来場型
開催

2024年**5/21(火)** 大阪本社 | **5/29(水)** 東京本社

開催時間:両日とも14:30~17:30 (受付開始:14:00~) ※各回、同じ内容です。ご都合のよい日程をお選びください。

主催



サステナブルグロースカンパニーをもって。
Funai Soken

株式会社船井総合研究所 〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-4-10 船井総研大阪本社ビル ※お問合せの際は「セミナータイトル・お問合せ NO・お客様氏名」を明記の上、ご連絡ください。

当社ホームページからお申込みいただけます。 船井総研ホームページ www.funaisoken.co.jp (右上検索窓に右記の「お問合せ No」をご入力ください) **112331**

お申込みはQRコード読み込みお申込みください!

または船井総研ホームページ(www.funaisoken.co.jp)にある右上の検索窓に「112331」を入力、検索ください。

※お申込みに関してのよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください。

船井総研セミナー事務局

E-mail **seminar271@funaisoken.co.jp**

※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。また、お問い合わせの際は「お問い合わせ NO とセミナータイトル・お客様名」を必ず明記しお伝えください。

お申込み HP URL <https://www.funaisoken.co.jp/seminar/112331>

TEL : 0120-964-000 (平日 9:30 ~ 17:30)

お問合せ No. **S112331**



お申し込みはこちらから
※ご入金確認後、マイページのご案内を
もって、セミナー受付とさせていただきます。

I はじめに

幼稚園業界を取り巻く環境

2022年の出生数は**770,759人**と80万人を割りました。また、2023年の出生数も速報値で約75万人と幼稚園における対象人口の減少は拍車がかかっていることは一目瞭然です。

さらに、2023年度はこども家庭庁発足やこども誰でも通園制度の発足発表により、子育て関連の政策がこれまで以上に“保育ニーズ”に対して重きを置かれていくことも見て取れ、**幼稚園としての運営を考えた際に益々厳しい環境の到来が想像できます**。特に園児募集という観点で考えた際に、全国的に募集定員の充足はここ1～2年で加速度的に減少していることが如実に表れてきています。また、仮にこれまで募集定員が充足していた幼稚園であっても、今までと同じであれば淘汰されてしまいます。

学校法人中島学園 認定こども園 きそ幼稚園



東京都町田市にて認定こども園を1園、
小規模保育所を1園を運営している

認定こども園移行という手段

上述の外部環境を加味すると、幼稚園としては、まず時代の流れに乗り認定こども園への移行による保育機能付加が必要不可欠な改革となります。対象人口が増加できることに加え、園としての収入源が施設型給付金へと変化し、より明確に把握していくことが可能となるためです。さらに、今後3～5年スパンで見たときには認定こども園としての募集力基盤の構築が次の改革としてあげられます。しかし、現状から逸脱をするのは不安なことかと思えます。

学校法人中島学園は、東京都町田市にて幼稚園型認定こども園、小規模保育所を運営されています。その中でも特に今回ご紹介する「認定こども園 きそ幼稚園」は、時代の流れにいち早く乗り2019年に幼稚園型認定こども園へ移行しました。

一般的に認定こども園移行してから3年間は対象人口拡大すること、また施設整備により園舎が綺麗になることで移行そのものに募集改善効果が見込まれますが、その後の運営安定というのは維持していくための取り組みが必要となってきます。一方で、きそ幼稚園の場合は移行に伴い園舎の建て替えを実施していません。

そこで、本レポートでは「認定こども園移行に踏み切るまでの道のり」「なぜ移行後5年以上連続で募集定員100%を持続できているのか？」についてご紹介いたします。今後の幼稚園経営を真剣に検討されている読者の皆様の参考となる事例が多数紹介されておりますので、是非お時間をかけてご覧ください。

私学助成幼稚園

私学
助成金

施設等
利用給
付費*

認定こども園

施設型
給付費

* 無償化対象額の2万5,700円のみ対象

Ⅱ 移行事例紹介

ゲスト紹介



学校法人中島学園
認定こども園 きそ幼稚園

櫻井 真 氏

大学卒業後、幼稚園・保育園に教材教具を販売する会社に6年間勤務

新人金賞や若手優秀社員賞を受賞するなど社内表彰を受ける。

その後、母が理事長・園長を務める学校法人中島学園に就職

前職での経験を活かし、幼稚園改革に着手

現在8年目。通信大学にて幼稚園免許状を取得

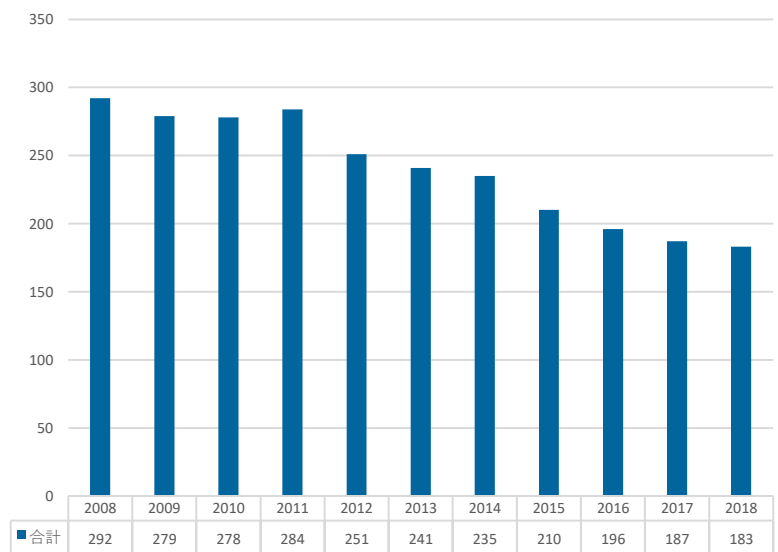
認定こども園移行を考えたきっかけ

園児数の減少

きそ幼稚園（以下：当園）は2019年に幼稚園型認定こども園へ移行をしました。当園が認定こども園への移行を検討し始めたころ、町田市全体の人口減少とは相反し、当園における園児数の減少が著しく、移行前年度には10年前と比較すると約100名減少していました。このままいくと10年後の当園園児数が危ういと当時感じました。

今後、子どもの数は減少していく一方であるなか、運営をどうしていこうか考えていた時に、認定こども園の存在を知りました。同時に、私は前職にて幼稚園・保育園向けに教材教具を販売する会社で営業をしていたのですが、そちらで担当していた首都圏エリアでも認定こども園への移行をする幼稚園・保育園が増えてきていました。

きそ幼稚園の園児数推移



移行までの道のり

例外ではなく、当園園長もこのままの園児数に危機感を感じており、認定こども園移行を選択肢の1つとして考え始めていましたが、どこから着手をしていけばいいのかがわかりませんでした。2016年に船井総合研究所の認定こども園移行セミナーに参加しました。

私も当園に入職をして以来、一貫して認定こども園への移行に向けて自治体と協議を進めていましたが地域の現状を踏まえると、認定こども園は必要ないため移行は難しいという趣旨の返答を受け続けていました。そんな中、専門家の同席のもとでの自治体交渉をしていきたいと考え私自身も2018年に船井総合研究所のセミナーへ参加しました。

Ⅱ 移行事例紹介

認定こども園移行した後の変化

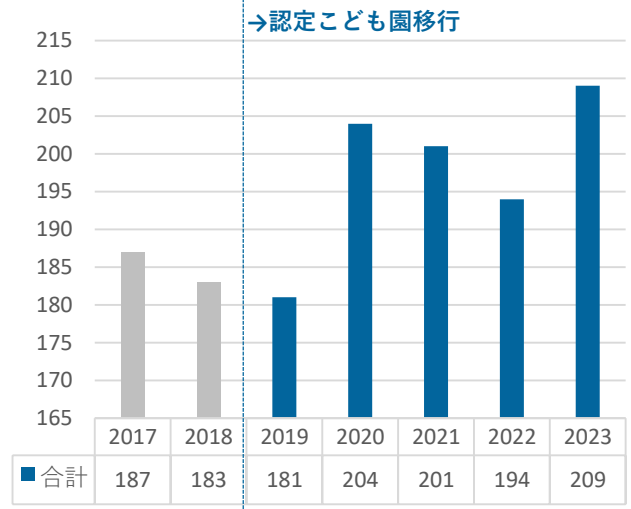
移行後2～3年目までの変化

認定こども園に移行した結果として、**子どもたちにとって、とてもいい環境へと変化**しました。

1つ目は毎年の園児数、並びに充足率が大きく改善しました。具体的には移行前年度（2018年度）全体で**183名**だった園児数が、移行2年度目には**204名**へと改善することができました。対利用定員充足率は移行前年度が61%であったのに対して以降2年度目は97%とこちらも大幅に改善をすることができました。

2つ目は職員数です。当園の職員数は移行に伴い30名(2018年度)から43名(2020年度)と**13名増員**しました。その甲斐もあって、2020年度には幼児教育の無償化の波にのり、満3歳児の受入を開始、**配置基準も6:1**で運用することができています。

認定こども園移行後 園児数の推移



移行3年目以降で取り組んだこと

当園は認定こども園移行の際、施設整備をしていないため園児募集に関して、施設の外観だけによる魅力付けが困難な一面があります。実際に移行3年目である2020年度における未就園児教室の集まりが難航しました。

今後のさらなる子ども人口の減少に危機感をおぼえ様々な施策を実施いたしました。例として定期的に数値確認を行うことにより園児募集人数目標に対しての進捗管理を行ったり、LINE公式アカウントやInstagram等の**SNSを有効活用**した園児募集施策を行ってきました。

それらの施策が功を奏し、認定こども園へ移行してからの**5年間**（2019年～2023年）当園として**募集をかけている年少園児数を毎年100%達成**すること、**2023年度は211名**の園児数確保ができています。

幼稚園文化を残したままの移行で苦労した点

永続的に幼稚園を残していきたい・・・

前項の通り、当園のおかれている状況からも認定こども園への移行を検討している中、**自治体から10園の小規模保育所を開設するため事業者の公募**が発表されました。そこで、当園としては、やはりこれまで大切にしてきた“幼稚園”という形から**変わっていってしまうことへの不安**は、特に創立以来大事にしてきた教育理念・教育方針を永続させていきたいという想いもあり、受入対象人口を広げていくべく未満児の受入ができる小規模保育所の運営に手を上げ、同時に**卒園児の受け皿としての幼稚園型認定こども園**への移行に関する必要性を同時に訴えていき、何とか認められました。

内部体制の整備

認定こども園へ移行してからが本当の意味でのスタートでした。当園では、**移行してからも問題が山積み**でした。具体的には倍増した教職員の育成・定着や、働き方改革、新規採用、認定こども園移行に伴う教育・保育の見直しなど主に人回りにおける課題点でした。

理事長・園長も私も移行してからわからないことだらけでしたので、船井総合研究所に移行後も引き続きお世話になり、左記のステップを進めた結果、前述の毎年募集年少人数100%超えにも寄与しているのだと考えています。

01 当園として目指すべき方向性の定義

02 経営計画の策定

03 経営方針発表会の実施

Ⅲ 認定こども園移行“だけ”では終われない！？

執筆者



株式会社船井総合研究所
子育て支援部 教育グループ
こども園・幼稚園チーム
チーフコンサルタント

高橋 叡功

一橋大学大学院経済学研究科修了後、株式会社船井総合研究所に入社。大学院在籍中は公共経済学・財政学や行動経済学を専門にする。入社後は在学中培った調査・分析能力を駆使して、施設型給付幼稚園・認定こども園移行サポートや、オンラインも併用した園児募集計画策定・実行支援をはじめとする、主に学校法人立の幼稚園や認定こども園への経営全般のコンサルティングに従事している。細やかな数値分析を基にしたコンサルティングスタイルを得意としていて、その精度には定評がある。近年では中期経営計画策定・実行支援のコンサルティングサービスも提供をしている。

認定こども園移行はスタートライン？

学校法人中島学園 櫻井氏のお話の中でも触れられていましたが、認定こども園移行は今後の幼稚園経営を考えた際のスタートラインにしか過ぎません。

そこで重要となってくる考え方は、如何に園として入園していただきたい保護者に向けて「認知」する活動ができているかという点に尽きると思います。具体的には移行後も変わらぬ園の“文化”を中心とした、法人理念を基に園としてのコンセプト設計を行い、その中で導き出された入園していただきたい保護者層に対してホームページ、Instagram、LINE公式アカウント、ポスティング、看板、Web広告（リスティング広告、SNS広告）、MEOと様々な手段を活用して幼稚園が行っている取り組みをまず知っていただくという流れが必要不可欠となります。

一般的に認定こども園移行してから3年間は対象人口拡大すること、また施設整備により園舎が綺麗になることで移行そのものに募集改善効果が見込まれますが、その後の運営安定というのは維持していくための取り組みが必要となってきます。

実際に、きそ幼稚園の場合は移行に伴い園舎の建て替えを実施していませんので、外観の大きな変化というのがありません。故に、少し早めの移行3年目にはすでに状況改悪の兆しが見え始めていました。そこで、櫻井氏はこれまで口コミに頼り切りで手薄であったきそ幼稚園としての認知活動を開始し、具体的には上記より、LINE公式アカウント、Instagram、SNS広告、MEOを組み合わせ活用して、未就園児教室や満3歳児の充足を維持し続けました。その効果もあり5年以上連続募集定員100%達成という結果に帰結しています。



LINE広告



Instagram

Ⅳ セミナー案内

最後になりますが、今回ご紹介させていただいた

学校法人中島学園 認定こども園 きそ幼稚園 櫻井 真 氏

をお招きし、**東阪2会場**にて「【2024年度版】私立幼稚園向け認定こども園移行セミナー」
を開催いたします！

セミナーでお伝えする内容（一部）

認定こども園への移行について

1. 幼稚園業界を取り巻く環境と今後の幼稚園経営の見通し
2. 実際に認定こども園移行するために必要な4つのポイントとは
3. 園舎建て替えなしの認定こども園移行事例
4. 移行前に把握しておきたい認定こども園制度理解
5. 受入対象年齢拡大に向けた取り組み
6. 教職員配置の基本的な考え方とは
7. 幼稚園文化を残したままの認定こども園移行の進め方
8. 認定こども園移行に関して障壁となる点とその乗り越え方とは

認定こども園移行後の安定した園運営について

1. 移行後の募集定員を5年以上連続100%達成するための秘訣
2. 移行後運営安定するまでのロードマップの立て方
3. 認定こども園移行をゴールにしないために考えたいこと
4. 運営安定化のために考えていきたい3つのポイントとは？
5. 認定こども園移行後こそ考えたい制度理解に向けて
6. 認定こども園としての組織体構築
7. 園運営の永続性を目指していくために考えたいこと

V お客様の声

ご参加された方のご感想

本セミナーにご参加いただいた皆様の感想をご覧ください。認定こども園移行を進めるにあたり悩んでいる法人にご参加いただき、ご参加者同士で情報交換をしていただいたり、ゲスト講師や弊社メンバーと意見交換をしていただいたりする等して、本セミナーを有効にご活用いただいていることがわかります。

来場セミナー参加者の声

2. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

たくさん情報量に圧倒でしたが、初めてこのようなセミナーに参加をさせていただき、とても勉強になりました。まずはスケジュール等について園長と話し合いたいです。

2. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

移行への試算は、適切に行うことが重要だと感じた。
特に最近、実態調査が徹底に行われ、傾向にあるので、
各種規定、マニュアルの見直しも、移行に関わらず、行う必要があると感じて、

1. 第一講座、第二講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

実際に移行された先生のお話を伺えてとても良かったです。
有教員への説明も分かりやすく進めたいと思いました。

2. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

ことも同様に移行だけでなく、今後の少子化に文字でも
考えたいかなという思いが改めて感じました。

2. 第三講座を受講して得た気づきや、「今すぐ実行したい」と感じたことをお書きください。

園舎の整備だけでなく、認定を受けられるように工事が必要
(後食室の設置)

その他セミナー参加者の声

- ・ 今後の方針を決めるうえで、大変参考になりました。参加できてよかったです。ありがとうございました。
- ・ 学園として適切な方向性を判断することの重要性を改めて確認させて頂きました
- ・ 漠然とですがこども園を検討している中、良いタイミングでこの講座に出会えました。
- ・ 大変になる部分(職員募集や園文化の維持等)も知ることができて良かったです。